

外為短観レビュー 1-3月の予想DI

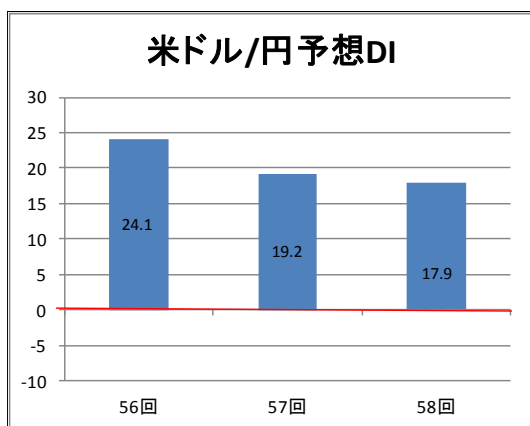
はじめに

外為どっとコム総合研究所は、月に1回の頻度で外為どっとコムに口座を持つFX投資家に対して、米ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円それぞれの「1カ月先の相場見通し」について質問し、その回答に基づいて「予想DI」を算出している。「予想DI」は上昇予想の割合から下落予想の割合を引いたもので±0が強気・弱気の分岐点となる。プラス幅が大きいほどFX投資家の総意として強気度合いが高く、マイナス幅が大きいほど弱気度合いが高いと考えられる。

1月-3月の各通貨ペア「予想DI」

・米ドル/円

米ドル/円予想DIは、回を追うごとにプラス幅が縮小しており、強気姿勢が徐々に後退していた様子が窺える。もっとも、水準自体が低い訳ではなく、FX投資家の強気姿勢は概ね保たれていると言えるだろう。



1-3月の米ドル/円相場は、取引初日の1月2日に105.440円の高値を付けた後、2月4日には100.754円の安値まで下落。アルゼンチンの外貨準備が枯渇するとの懸念からペソが急落した「アルゼンチン・ショック」などが影響した。その後はやや下値を切り上げたものの、ウクライナ情勢への懸念などから103円台には定着できなかった。3月に入っても、101円台から103円台を上下するなど、方向感を欠く展開となった。



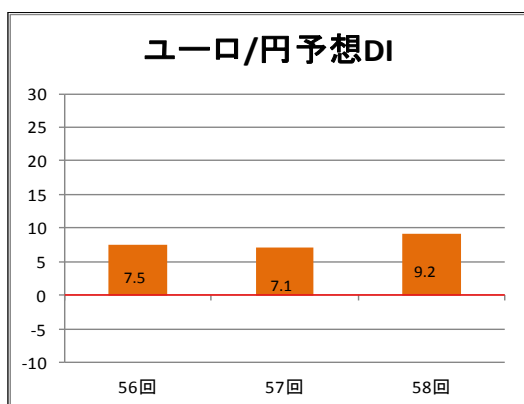
FX投資家は、1月の下落局面でも比較的強気な見方を維持してきたが、2月や3月の戻りの鈍さを目の当たりにした事で、強気見通しがやや揺らぎ始めたようだ。もっとも、後述するユーロ/円や豪ドル/円の予想DIに比べると米ドル/円予想DIは高水準をキープしている。2015年にも米国の利上げが開始されると見られる中、FX投資家はユーロや豪ドルよりも、米ドルに先高期待を抱いているという事だろう。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

・ユーロ/円

ユーロ/円予想DIは、何とかプラス圏を維持したが、プラス幅は3カ月連続で一桁台にとどまった。弱気転落とまではいかないものの、強気見通しが優勢とも言えるほどでもない。ユーロに関しては、域内景気の回復基調や、それに伴う海外からの投資需要などが買い材料として意識される一方、ウクライナ情勢への不安や欧州中銀(ECB)による追加緩和観測などが売り材料として意識されるなど、強弱感が対立しやすいようだ。



1-3月のユーロ/円相場は、年初には145円台を付けていたが、「アルゼンチン・ショック」などから大きく下押し、2月初旬には136.226円まで下落した。ところが、3月初旬にかけて143円台まで切り返しており、文字通りのV字回復となった。3月6日に行われた欧州中銀(ECB)理事会で、ドラギ総裁が、追加緩和に否定的な見解を示した事がユーロの反発に大きく貢献した。



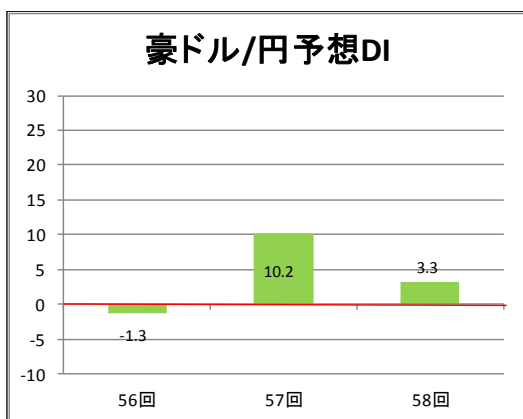
ただ、相場がV字型チャートを描いても、FX投資家の見通しに目立った変化は見られなかった事になる。ユーロ/円相場の見通しについては、強気派・弱気派の勢力図がほぼ固定化されており、相場展開によってその見通しを修正する向きは少ないのかもしれない。

・豪ドル/円

豪ドル/円予想DIは、第56回調査において3通貨ペアの中で唯一マイナスDIを記録した。翌月の第57回調査では2桁のプラス幅に持ち直したものの、第58回調査では、再びプラス幅を縮小して±0近辺まで落ち込んだ。この回の調査では3通貨ペアの中で最も低いDIとなっており、FX投資家が豪ドル/円相場に対して信頼感を喪失している様子がはっきりと見て取れる。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



1-3月の豪ドル/円相場は、米ドル/円やユーロ/円と同様に、「アルゼンチン・ショック」の影響などから1月に大きく下落したが、2月以降に持ち直した。ただ、他の通貨ペアと異なるのは、3月中旬以降に上昇が加速した点だ。ウクライナ情勢や中国景気の減速に対する過度の懸念が和らいだ事もあるが、豪州の経済指標に好結果が目立ち、豪準備銀行(RBA)の追加利下げ観測が後退したほか、RBAの豪ドル高を牽制する姿勢が緩んだ事が3月後半からの13連騰につながった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

3月後半の相場上昇局面は、第58回調査のアンケート期間(3月11~18日)とわずかしこ重なっていないため、この上伸は投資家心理にほとんど影響していないと推測される。それにしても、こうした上昇を予想した向きがごくわずかであったという点で、豪ドル/円相場に対するFX投資家の信頼度は「低迷」していると言うほかさそうだ。

4月-6月に向けて

米ドル/円相場は4月に入り、約2カ月半ぶり高値を付けた後に反落しているが、この間にFX投資家は強気見通しに沿って買い持ち(ロング)ポジションを増加させている。外為どっとコムにおけるFX投資家のポジションバランスは、ロングの比率が85%まで上昇(ショートが15%に低下)して、昨年10月以来の高水準となっている(4月10日時点)。いわゆる「逆張り」の米ドル買いが膨らんだ格好であり、米ドル/円相場が101円台前半で無類の底堅さを見せた一因と考えられる。今後も、米ドル/円予想DIが現状のプラス幅を維持できれば、FX投資家の「逆張り」が、ある程度相場を下支えする公算が大きいだろう。(了)